

授業科目名	社会言語学(2100522)		
時間割名	社会言語学(23114)		
時間割担当	鳥谷善史		
実施期	前期	単位数	2 選択
曜日・時限	火・3		

■授業の目標・概要

社会言語学は、ことばを社会・文化と相互作用するものとして捉えている。言葉を分析していくことで、社会の傾向や構造を垣間見ることができ、社会の変化は言葉に影響を及ぼす。本講義では、社会言語学が扱う諸理論を、先行研究を読み解きながら学習した上で、それらの理論が日常生活にどのようにつながっているかを分析・考察・討論し、理解を深めていく。

■学習の到達目標

ことばが変化する要因としては、ことばそのものに内在する法則とことば以外の刺激によるものがある。社会言語学は、ことばの変化といった側面において、両者の要因を総合的に考察しつつも、特に後者のことば以外の社会的要因との相関を調査をとおして実証的に研究する分野である。その実例として「ら抜き言葉」を事例に研究内容を紹介する。

また、日本の社会言語学は、「方言学」との関係が密である。そこで、「標準語と共通語」・「方言と言語」の違いなどについて、言語学の立場から考察したい。その後、日本各地の諸方言について概観したうえで、その分布形成の要因を「方言圏論」他から確認してみたい。

■授業方法・形式

講義形式

■授業計画

- 第1回 社会言語学とは
- 第2回 日本の社会言語学とその研究分野
- 第3回 文法の変化（ら抜き言葉を中心に）1（現象の分析）
- 第4回 文法の変化（ら抜き言葉を中心に）2（通時的側面）
- 第5回 文法の変化（ら抜き言葉を中心に）3（共時的側面）
- 第6回 文法の変化（ら抜き言葉を中心に）4（方言からみる変化の実態）
- 第7回 文法の変化（ら抜き言葉を中心に）5（属性からみる変化の実態）
- 第8回 ら抜き言葉のまとめ（小テスト：レポート）
- 第9回 方言と言語の違いについて・「共通語」「標準語」と「方言」
- 第10回 方言の分布について1（圏分布1）
- 第11回 方言の分布について1（圏分布2）
- 第12回 方言の分布について1（圏分布3）
- 第13回 日本語諸方言の実態1（方言区画論）
- 第14回 日本語諸方言の実態2（具体的音声から）
- 第15回 社会言語学のまとめと小テスト

■成績評価の基準

小テスト（レポート含む）：50% 授業中課題：10% 授業中発表等：10% 授業に取り組む態度：30%

■準備学習・復習及び授

授業中に紹介した参考文献やシラバスの参考書を読み、より考察を深めレポートを作成すること。最後に、基本用語の関する小テストがあるので、ノートや参考文献を確認し、小テストに臨むこと。

■履修上のアドバイス及

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。
受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

■教材・教科書

井上史雄（1998）『日本語ウォッチング』岩波新書

■参考書

- 徳川宗賢・真田信治編（1995）『関西方言の社会言語学』世界思想社
- 松本 修（1996）『全国アホ・バカ分布考』新潮文庫
- 井上史雄（1998）『日本語ウォッチング』岩波新書
- 真田信治編著（2011）『方言学』朝倉書店
- 真田信治編（2006）『社会言語学の展望』くろしお出版
- 岸江信介他編著（2009）『大阪のことば地図』和泉書院
- 松森晶子他編著（2012）『日本語アクセント入門』三省堂
- 岸江信介他編著（2013）『都市と周縁のことば』和泉書院
- 木部暢子他編著（2013）『方言学入門』三省堂
- 小林隆編（2014）『柳田方言学の現代的意義』ひつじ書房